

消防学校 ニュース



令和8年3月号

SHIZUOKA
EMS. ☆35

FIRE ACADEMY

消防職員専科教育

救急科第 35 期

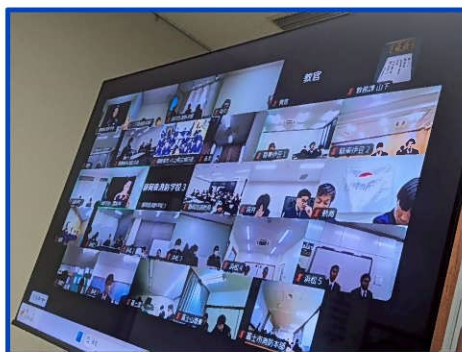
～攻めの救急科、リモートからリアルへ～

『 Remote Phase 』

画面超しても、**熱く！**知識の土台を築く。

1月6日（火）から2月27日（金）までの約2か月間、125人の学生が救急科第35期に入校しました。コロナ期を経て定着したリモート教育形態は、今や救急科の基礎を固めるための標準的なスタイルとなっています。

本カリキュラムの遂行にあたり、各消防本部より経験豊富で専門知識を有する講師の方々を派遣いただきました。最前線で活躍するプロの知見を惜しみなく教授していただいた関係消防本部の多大なる御協力に対し、深く感謝申し上げます。経験を踏まえた熱意ある指導が、学生たちの救急隊員としての志に確かな火を灯しました。



各会場風景



入校式



講義風景

学生たちが最初に向き合ったのは、人体の緻密な構造を紐解く「解剖生理学」です。心臓の拍動、肺のガス交換、脳の神経伝達など、生命の仕組みを一つずつ紐解くことから着手しました。

その後は徐々にステップアップして疾患ごとのメカニズムを学ぶ「病態別応急処置論」へと進み、さらに、中毒や環境障害、小児、高齢者、周産期救急といった「特殊病態別応急処置論」へと学びを深めることで、一步ずつ着実に、救急隊員としての知識の基礎を固めていきました。

この段階的な学習プロセスにより、学生は単なる暗記ではなく、「病態の根拠に基づいた判断力」を養うことができました。学生は各消防本部の会場における受講でありながら、オンラインで結ばれた医師や各消防本部からの派遣講師による熱い指導によって思考をより高度な水準へ引き上げていきました。

『 Real Training Phase 』

知識を「命を救う力」へ変える。待望の入寮、実習開始！

リモートでの座学を終え、2月11日から舞台を消防学校に入寮しての実習へと移行し、これまでに得た知識を「技術」へと昇華させるフェーズへと突入しました。救急資器材の一つ一つを正確かつ迅速に取扱う「個の習熟」から始まり、J-PTECや内因性シミュレーション訓練、多数傷病者机上訓練へと段階的に実習を進める中で、学生たちは、個人の力だけでは救えない命があることを痛感したはずです。

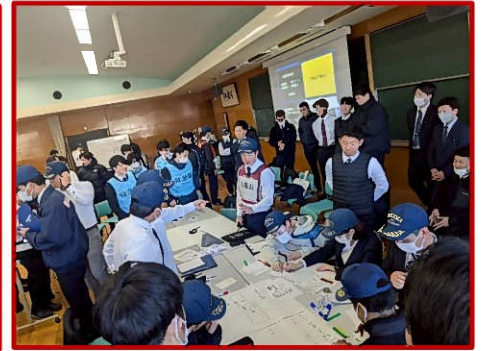
チームとしての活動の中で、学生たちは互いに声を掛け合い、役割を分担し、刻々と変化する現場状況に対応する技術を学びました。一人ひとりが積み上げた「個の力」が、信頼という絆で結ばれ、一つの「チームの力」へと統合されていきました。基礎から応用、そして組織的な活動へと一段ずつ階段を登るように積み上げてきたこれまでの過程が、実習を経て揺るぎない救命の絆として結実しました。



J-PTEC



内因性シミュレーション



多数傷病者机上訓練



(担当教官コメント)

「攻めの救急科」。この救急科で教官から学生の皆さんに度々伝えたメッセージです。待ちの一手から始まる消防活動ですが、とりわけ救急活動においては受け身の姿勢では命を救うことはできません。この救急科で得た知識と技術を武器に、自ら一歩前に進み、次に起こり得る事態を予測して先手を打ってください。「攻めの姿勢」こそが、救命率を左右し、苦しんでいる傷病者の唯一の希望となります。

修了後に置かれた場所はそれぞれ異なりますが、私たちは同じ志を持つ「同志」です。各々が当たり前前を当たり前前にやる。それぞれの「隅」をしっかり照らして全員で大きな光にしましょう。皆さんの健闘を期待しています。

教務課主査 田畑 誠 (志太広域事務組合志太消防本部から派遣)

消防職員専科教育 予防査察・危険物科〈第10期〉

予防でしか守れない命がある。 現代の査察は人命救助の最前線

2月24日（火）から3月12日（木）までの13日間、専科教育「予防査察・危険物科」を開催し、県内16消防本部（局）から46人が参加しました。本教育課程では、以下の4項目を到達目標として掲げ、県内外から予防業務に専従している消防職員、消防設備に精通した民間企業の専門家、危険物化学を専門とする大学教授などを講師として招き、幅広く専門的な教育を実施しました。

【到達目標】

- ・ 査察及び危険物行政の現状と課題を理解すること。
- ・ 防火管理、建築規制、危険物規制、消防用設備等に関する専門的知識を身につけ、適切な査察要領を習得すること。
- ・ 与えられた権限を正しく行使し、違反対象物に対して適切な是正指導ができること。
- ・ 危険物施設に対して許認可等の規制を的確に行い、違反を適切に処理できること。



講義の様子



通常点検



避難設備実習



危険物燃焼実験



査察実習



合同聴講

（担当教官コメント）

本教育課程では、予防業務の責任と重要性を的確に認識し、予防業務に熱い気持ちを持って取り組めるようになることをテーマとしてカリキュラムを作成しました。内容は、予防査察及び危険物に関する基礎知識から始まり、実務で必要となる知識・技術の習得を経て、集大成として査察実習を実施しました。

査察実習においては、受講生が互いに協力し、真剣かつ積極的に取り組む姿が見られました。その様子から本教育課程で得た知識・技術を各所属に戻って十分に発揮してくれるものと確信しました。

予防業務の根幹は、火災の未然防止にあります。常に利用者の危険排除に目を向け、予防業務を適切に遂行することが重要です。万が一、大切な人が火災被害に遭った際に、消防が行ってきた指導が適切であったと納得してもらえるかを常に考え、市民目線で業務に取り組むことが、市民の生命・身体・財産を守ることにつながると考えます。

修了生の皆さんには、本教育課程で得た知識・技術を基礎として、積極的に業務へ取り組み、各所属で一層の活躍を期待しています。

最後に、本教育課程に御協力いただきました講師の皆様へ深く感謝申し上げます。今後とも学校教育への御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

教務課主査 都築 克典（静岡市消防局から派遣）

消防職員特別教育 ホットトレーニング講習（第4回）

令和7年12月3日（水）から令和8年2月18日（水）までの間（内8日）でホットトレーニング講習（第4回）を実施し、県内14消防本部（局）から154人が参加しました。本講習は、動画による事前学習と、実際に木材を燃焼させ実火災に近い熱環境を再現させる濃煙熱気実火災訓練装置により、熱環境及び濃煙を体験すること、火災初期からの火災性状を理解すること及び個人装備の重要性を再認識することを目的とした講習です。



施設説明



着装状態確認



濃煙熱気実火災訓練装置内



濃煙熱気実火災訓練装置内

【担当教官コメント】

ホットトレーニング講習では、火災性状の基礎知識を理解するとともに、熱環境や濃煙下での視界・行動の困難さ、個人装備の重要性を再認識することを目的として講習を実施しました。ホットトレーニングは屋内進入を推奨するものではなく、実火災とは区画や燃料条件等が大きく異なることを強調し、訓練の意図を受講者に正しく理解してもらうことに努めました。受講者の方々も真剣に取り組まれ、安全管理を徹底した有意義な講習となったと感じました。

教務課主任 菅野 格太（熱海市消防本部から派遣）

離任教官表彰状授与式

厳しい教育訓練、ありがとうございました

3月25日（水）、この3月に所属消防本部（局）へ帰任する4人の教官に対し、「離任教官表彰状授与式」を行いました。学校長から、県内の消防職員や消防団員等の指導育成のための尽力に対し、表彰状が授与されました。また、県職員の高村教官が定期異動で当校を離れることとなりました。

離任教官の皆様、本当にありがとうございました。県内の消防力向上のために、常に全力で、そして真摯に取り組んでいただきましたことに感謝いたします。

新天地において、消防学校で培った技術や経験、大きな人間力を十二分に発揮し、所属の消防職員のお手本として頑張っていたいただきたいと思います。皆様の御健勝をお祈り申し上げます。



左から

浅井 三郎 総務課長（県職員）
水野 清人 教官
（磐田市消防本部から派遣）
鈴木 敏弘 教官
（富士市消防本部から派遣）
山口 知宏 教官
（浜松市消防局から派遣）
山下 大輔 教官
（駿東伊豆消防本部から派遣）
高村 勇一郎 教官（県職員）

離任教官からのコメント

消防学校教官として、他で経験することができない貴重な時間を過ごさせていただきました。この環境を与えていただいた事に感謝し、期間中に得た知識を活かして今後の業務に邁進していきたいと思えます。

また、この3年間でたくさんの出会いがあり、そこから多くの気づきを得ることができました。今後、自分に足りないものを少しずつ補っていき、時間をかけて成長していけたらと思います。派遣期間中に会ったすべての方々に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

教務課主査 山口 知宏（浜松市消防局から派遣）

3年間、特別な場所で働くことができ、幸せでした。専科教育、団教育、どの教育にも学びがありました。とりわけ初任教育に携われたことを嬉しく思います。素晴らしい教官達と共に、悩みながら、試行錯誤しながら走り抜けた日々は一生の宝物です。ここで学んだことを今後の職務に必ず活かしてまいります。応援してくれた家族、派遣してくれた所属、教育訓練に支援いただいた講師の方々、出会えた学生の皆さん、全ての皆様に心からの感謝を申し上げます。

教務課主査 鈴木 敏弘（富士市消防本部から派遣）

自分なりに熱く、厳しく、教育者として駆け抜けてきた3年間。改めて駿東伊豆消防本部、静岡県消防学校、共に走った同志に心から感謝いたします。

この場所の意義はこれからも不変であり、自分自身にとっていつまでも特別な場所です。今後も消防人として歩みを止めることなく、走り続けます。すべては国民のために。

教務課主査 山下 大輔（駿東伊豆消防本部から派遣）

消防学校に赴任し3年が経ち改めて感じることは、家族をはじめ、所属の上司・同僚、教官、学校職員、入校学生、支援いただいた講師の方々に日々支えられ、職務を全うすることができたということです。心より感謝申し上げます。

指導において判断に迷った際は、「自分らしく」を念頭に置き、考え行動してきました。また、失敗を学びの機会と捉え、常に前向きな気持ちで職務に取り組むことで充実した日々を過ごすことができました。この経験を糧に、所属の更なる発展に尽力して参ります。

教務課主査 水野 清人(磐田市消防本部から派遣)

異動当初、消防士ではない自分が教官として務まるのかどうか不安でしたが、白鳥校長、三沢元校長、宮田副校長、総務課の皆様、そして共に汗を流した教官の方々のおかげで無事に職務を全うすることができました。また、共に成長する機会を与えてくれた学生の方々、学校運営に御支援いただいた消防本部の方々など、たくさんの人達と知り合うことができました。このつながりは何よりも得がたい自分の財産となりました。すべての方々に深く感謝申し上げます。

これからも消防と県の橋渡しができるよう研鑽を重ねるとともに、地域防災力の一層の向上に貢献できるよう精進していきます。本当にありがとうございました。

教務課主査 高村 勇一郎(県職員)

白鳥校長の一言(時事雑感)

教官諸氏の離任に寄せて

校庭の桜がほころぶとともに、吹く風にも春の息吹が感じられる季節となりました。関係者の多大なご理解とご協力のもと、令和7年度消防学校の教育課程がすべて無事に修了し、職責を全うされた教官方が消防本部や県庁へと力強く羽ばたいていきます。3年間にわたり学生の模範となり、時には厳しく、時には温かく指導にあたってくれた5名の教官の献身的なご尽力に心から敬意と感謝を表します。

また、教官を派遣くださった関係消防本部(局)に厚く御礼を申し上げます。

再び現場の第一線や各組織の要職へと戻られる教官諸氏におかれては、それぞれが良き個性を発揮され、第96期初任科のスローガン「精神一到」のマインドを自ら体現し、情熱を傾けてくれました。学校で蒔いた種は、修了された多くの消防職員や消防団員の皆様の中で着実に芽生え、花開いていくものと信じます。

ある教官から、教育の本質を説く次の名言を教えてくださいました。大切にしたい言葉です。

「教えるとは 共に希望を語ること。学ぶとは 誠実を胸に刻むこと」

(ルイ・アラゴン; フランス詩人)

消防学校での日々は教える立場としても「最大の自己研鑽」であったことでしょう。本校での様々な経験を糧に、新天地でのさらなるご活躍を期待しております。本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

